

気仙沼の漁獲量の減少の解決のため、 担い手を増やすのは最適か

気仙沼高校 3403A

I 序論

目的

なぜ漁獲量は減少しているのか？

【若者の関心を高め担い手を確保に貢献する】

背景

★ 漁業への関心不足や環境の不備で
起こる人手不足の進行

→漁獲量の減少が引き起こされる

II 本論

調査対象：気仙沼高校全校生徒

調査・実験方法

アンケートの実施 → 再実施

- ・漁業に対する関心度の現状把握
- ・再実施による関心度の比較

※アンケートの再実施の際、漁業の現状や仕事
などと過去の三陸新報の記事からの新人漁師
の体験談を紹介した資料を同時に配信

-ご協力-

気仙沼市水産研修センター職員の皆様

-参考文献-

気仙沼市水産研修センター配付資料

<https://job.fishermanjapan.com/column/3361/>

III 結論・まとめ

●結論

漁業の仕事について関心を持った人の
割合が増えた

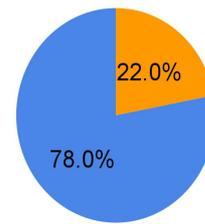
⇒漁業に対する理解が増えた
⇒知られていない情報のPR

→現代社会の職種の増加により、関心が
一時的にしか続かないのではないかと思
われる。

●結果

漁業の仕事に関心があるかどうか。(1回目)

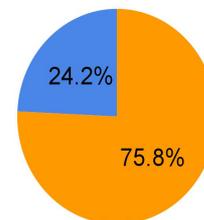
●はい ●いいえ



150人回答

(2回目)

●はい ●いいえ



77人回答

IV 展望

今回のアンケート結果より、資料の効果が
期待されるので、紙媒体を用いてより広範
囲の市民へ発信し漁業に対する関心度を
高めていきたいと思う。